

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成28年6月16日 (2016.6.16)

【公開番号】特開2014-225203(P2014-225203A)

【公開日】平成26年12月4日 (2014.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-066

【出願番号】特願2013-105159(P2013-105159)

【国際特許分類】

G 0 6 F 17/50 (2006.01)

B 6 5 H 7/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/50 6 1 2 L

G 0 6 F 17/50 6 1 2 H

G 0 6 F 17/50 6 8 0 Z

G 0 6 F 17/50 6 1 2 D

B 6 5 H 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月25日 (2016.4.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

記録媒体が搬送経路を搬送されていく挙動をシミュレーションする装置であって、  
前記シミュレーションの結果から、前記記録媒体が前記搬送経路を搬送されるときに理想状態からのずれを示す搬送誤差を導出する手段と、  
導出された前記搬送誤差を表示する手段と、  
を備え、  
前記搬送誤差は、前記記録媒体の傾き量又は横ずれ量であることを特徴とする装置。

【請求項 2】

前記搬送誤差を導出する手段は、前記搬送経路を構成するローラ毎に前記搬送誤差を導出することを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記シミュレーションは、前記記録媒体を有限要素法によりモデル化した複数の要素を用いて実行され、

前記搬送誤差を導出する手段は、前記搬送経路を構成するローラに挟みこまれている前記要素を検出し、当該検出された要素の辺と前記ローラの軸とのなす角度を前記傾き量として導出する

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記搬送誤差を導出する手段は、さらに、前記ローラの軸の中心と、前記記録媒体の幅方向の中心との差を前記横ずれ量として導出することを特徴とする請求項 3 に記載の装置。

【請求項 5】

前記表示する手段は、導出された前記搬送誤差をグラフで表示することを特徴とする請

求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の装置。

【請求項 6】

前記グラフは、前記ローラ毎の波形を含むことを特徴とする請求項 5 に記載の装置。

【請求項 7】

前記表示する手段は、導出された前記搬送誤差をローラ毎に示したデータテーブルで表示することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の装置。

【請求項 8】

前記表示する手段は、前記搬送誤差を導出する手段で導出された搬送誤差が閾値を超えた場合、その旨を通知するメッセージを表示することを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の装置。

【請求項 9】

記録媒体が搬送経路を搬送されていく挙動をシミュレーションする方法であって、

前記シミュレーションの結果から、前記記録媒体が前記搬送経路を搬送されるときに理想状態からのずれを示す搬送誤差を導出するステップと、

導出された前記搬送誤差を表示するステップと、

を含み、

前記搬送誤差は、前記記録媒体の傾き量又は横ずれ量である

ことを特徴とする方法。

【請求項 10】

コンピュータを、請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の装置として機能させるためのプログラム。